

## 中国少数民族の現状とその研究課題

宋, 建華  
九州大学教育学部

<https://doi.org/10.15017/2244072>

---

出版情報 : 九州人類学会報. 18, pp.21-23, 1990-07-31. Kyushu Anthropological Association  
バージョン :  
権利関係 :

# 中国少数民族の現状とその研究課題

宋 建 華

中国は多民族の国で、四千年以上のふるい歴史をもっている国である。昔から今まで中国の土地には言語・宗教・生産と生活の様式、風俗習慣などいろいろな面で違うさまざまな民族が住んでいる。今、漢族を含めて五十六の民族がいる。

1982年の第三回目の国勢調査によると、漢族の人口は93,670万人で、総人口の93.3%を占めている。55の少数民族の人口をあわせて6,723万人で、総人口の約6.7%を占めている。中国の少数民族の人口が少ないけれども、逆に分布の地域は非常に広い。その居住面積は中国の総面積の50~60%を占めている。一般的に、その分布の特徴は三つある。①少数民族は人口が少ないし、分布の地域が広いことだけでなく、その大部分が人家のまれなところに、山間・高原・遊牧・森林のような地帯に住んでいる。②そちらの物産および天然の資源が非常に豊かで、中国の近代化を実現する面で重要な位置を占める。③少数民族の地区は大体に辺境の一带にある。それは歴史における民族移動・移民・王朝の後交代などの原因によって、中国の少数民族は各民族の雑居性・集居性・分散性・交錯性などさまざまな分布形態をつくっている。それ故に、漢族を主とする各民族の広範囲にわたる雑居と狭範囲における集居は中国の民族分布の一つの大きな特徴である。

民族の言語体系については、五十五の少数民族のうち、漢言語を話す民族は回族と満州族だけである。ほかの民族は自民族の言語をもっている。言語体系からすれば、それらは漢・チベット語系、アルタイ語系、南アジア語系、南島語系、インド・ヨーロッパ語系に別々属しているが、いまだ京族の言語はどの言語に属するか分かっていないだけである。

①漢・チベット語系に属する民族は29がある。少数民族の総言語の52.7%占めている。それらは主に三つの語族を分けて中国の中南部と西南部に分布している。

a. チワン・トン語族 チワン族、プイ族、タイ族、トン族、モーラオ族、シュイ族、モオナン族、リー族

b. チベット・ビルマ語族 チベット族、メンパ族、イ族、リーソー族、ナーシー族、ハニ族、ラフ族、ジノー族、ペー族、ジンブオ族、トーロン族、チャン族、プミ族、ローパ族、ヌー族、アチャン族、トーチャ族

c. ミャオ・ヤオ語族 ミャオ族、ヤオ族、シェー族、コーラオ族

②アルタイ語系に属する民族は17があり、少数民族の総言語の30.9%を占めている。それらは主に中国の東北部と西北部に分布している。

a. 突厥語族 ウイグル族、カザフ族、キルキズ族、ウズベク族、タタール族、サラ族、ユイグー族の一部分

b. モンゴル語族 モンゴル族、ダフル族、トー族、トンジャン族、バオアン族、ユイグー族の一部分

c. 満・ツングース語族 オウungk族、オロチョン族、満州族、シボ族、ホーチオ族

③南アジア語系に属する民族はワー族、パラウン族とプーラン族である。

④南島語系に属するのは高山族である。

⑤インド・ヨーロッパ語系に属する民族はロシア族とタジク族である。

#### 中国の少数民族に対する研究の課題

中国で、少数民族に対する研究は本世紀の二十年代から始まったといえる。当時の燕京大学、清華大学、金陵大学、華西大学、嶺南大学などに民族学学科が設けられた。主には、廣西省のヤオ族、台湾の高山族、黒龍江省のホーチャオ族、湖南省のミャオ族などにたいしてそれらの歴史、社会、文化、言語などの面で総合的な調査を行った。当時に民族学の分野で活躍された学者は呉文藻、田汝康、費孝通、林耀華らなのであった。

解放後、中国政府は中国では各民族は一律に平等であるということを宣告した。その同時に、民族研究の活動は中国にどれほどの少数民族がいるか、諸民族にどのような歴史や社会、文化の特徴などがあるかという問題をめぐって盛んに展開された。その研究課題については、次のいくつかの方面である。

#### ①民族識別の調査と研究

1953年代に、その民族識別の調査と研究を展開した前に、多くの民族が自分の民族の出身をはっきり認めようと要求し、そして自ら申し出た民族の名称は400以上ある。それほどの民族の名称と民族出身を明らかにするために、多くの民族者、歴史学者と言語学者は全国で民族識別の調査を大規模に行っていた。主に、各民族の言語、地域分布、生産様式と生活様式、風俗習慣および自民族の意識などを調査、研究した。1956年に、その調査と研究の結果にもとづいて、中国政府は51の少数民族の名称を公表した。1983年まで正式的に公表された民族の名称は55になった。ただ今、その研究の活動はまだ続けて、民族出身が明らかにされていない集団は約30いる。だから、中国の少数民族の数は改まるのだろう。

#### ②少数民族の言語についての調査

1956年から、中央政府によって組織された七つの言語の調査グループは各少数民族の地区に赴いて言語の調査を始めた。1959年まで、15の省と自治区にわたる42種の言語を詳しく調査した。今まで明らかにした言語には60種以上あり、またそれらの言語の体系、文法構造、語彙などを研究していた。そして、その一部分の字典、文法書、教科書なども編集された。このような調査を通してたくさんの珍しい言語の資料を収集し、新しい言語の現象を発見して、中国の少数民族言語学の発展にかたく基礎を定めた。

#### ③少数民族の社会と歴史についての調査

1958年に、中国科学院（今社会科学院）民族研究所が成立された。その同時に、民族研究所を主として全国の大学などの研究機関から民族学者、歴史学者、考古学者、社会学者、経済学者など千人あまりを集めて、各民族の社会生産力、所有制度、階級関係、歴史の発展、風俗習慣などに全面的な調査を行っていた。その調査の過程の中に、数千万字の資料をまとめ、民族の文物をたくさん収集し、そして、少数民族の社会、文化に反映している記録映画を製作した。

六十年代以後、中国の民族研究は主として上述の三つの方面をめぐって展開されたが、文化大革命には一度中断した。しかし、文化大革命以後、五十、六十年代の調査の資料にもとづいて編集された少数民族に関する五種シリーズがついに出版された。それは『中国少数民族』、『中国少数民族簡史』

叢書』、『中国少数民族語言簡志』、『中国少数民族自治地方概況叢書』、『中国少数民族社会歴史調査叢刊』（全部300余冊、約5000万字）である。

今の中国の民族研究は次のような主的な方面である。

#### ①民族問題の理論と民族政策についての研究

民族問題に関する基礎的な理論、中央政府によって公布された民族綱領と民族政策、国内の民族関係と民族問題および民族問題に関する統一戦線問題と宗教問題などを研究するのである。

#### ②民族学の研究

その主な研究の内容は民族共同体の形成から滅亡までの発展の過程とその法則、各民族の社会形態とその生産様式および生活様式、民族の観念とその心理および風俗習慣などの特徴、新しい政治と経済の環境における民族社会の変化と展望、社会改革の過程の中における民族社会の発展と変化、民族学の理論とその調査法および民族学の歴史などのである。

#### ③民族歴史の研究

今は主として異なる王朝の時代における各民族の歴史を別々に研究し、およびその民族関係の歴史を研究している。その同時に各民族の政治歴史、経済歴史、文化歴史と地域的な民族歴史の研究が展開されている。また少数民族歴史の発展についての意義と法則の研究も重要な課題である。

#### ④民族言語の研究

主的な課題は中国の少数民族言語の現状とその発展の法則、各民族の間における言語の関係、特に親族言語の関係の研究で、また古い文字を含める各民族の文字の特徴とその発展の法則および文字の改革とその作り出しなどの問題、言語を使うときに出たいろいろの理論的問題と具体的問題の研究である。

#### ⑤国外の民族についての研究

その重点は世界の各民族の人口、分布、社会構造、経済生活、文化伝統、宗教信仰など、および多民族をもっている国家の民族問題とその民族政策などを研究するのである。

ただ今、一番大切な研究課題は二つがある。一つには、民族主義運動と民族の間における紛争が次々と続き起こしていた問題である。もう一つには、改革開放以来、ますます目立ち過ぎた少数民族地区における経済、教育と文化などの発展問題である。それらの問題に対しては、民族学の立場からすれば、その原因がなにか、なぜますます激しくなるか、どういうふうに対処するかなど問題を研究していることに拍車をかけた。